



2021. 7 .14

瀬戸ひなご幼稚園園長 神戸洋美

水遊びではしゃぐ

今年の梅雨入りは例年に比べて1か月も早く始まりました。湿気だけでなく気温も上昇し、むしむしの毎日です。ここ最近、雨の日が続いているので、思うように水遊びが出来ませんが、隙間をぬって少しでも晴れた日は水遊びを行っています。

コロナの影響で残念ながら、今年も大きなプールを設置することは出来ませんでした。ビニールプールを出して、水遊び用のおもちゃをたくさん用意しています。水鉄砲、貝殻や海の生き物の形をしたおもちゃ、バケツ、ジョーロ等々、それらを使って子どもたちは夢中になって遊びます。プールの中におもちゃをばらまいて拾ってあそんだり、バケツに水を汲んであちこちに運んで水まきしたりと、飽きることなくずっと遊びます。水のかけあいっこになると、先生たちは子どもたちから集中攻撃を受け、頭から足の先まで全身ずぶ濡れ。激しくかけられて化粧もはげてしまうくらい。誰かわからないかも？



子どもたちは水遊びが大好きですが、中には水が苦手なお子さんもあります。そういうお子さんの周辺では、あまり過激にならないように先生たちは注意を払います。実は私、幼稚園児の頃、湖で浮き輪に乗せられて水面を漂っていた時、母親があやまって私をひっくり返してしまい、その時に目に入ってきた光景が今でも忘れられません。横になった私の眼には空と水中が半分ずつ見えました。もちろん、水を飲んでゲホゲホと大泣き。それがトラウマとなり、水の中に入ると体が硬直状態になってしまうのです。

水が苦手なお子さんは、プールの用意を持っていくのを嫌がるかもしれませんが、少しずつ慣れてくれるように工夫して進めていくので、安心して送り出してくださいね。

トイレのスリッパを揃えること

幼稚園で集団生活を経験することは、社会に出ていく第1歩です。家庭の中で家族の愛情をいっぱい受けて育つうちは、わがままを聞いてもらえたりご機嫌を取ってもらえたりしますが、幼稚園では誰も自分のご機嫌伺いをしてくれません。担任は一人ひとりの思いをくみ取りながら声かけをしますが、子どもたち同士では相手を思いやることはなかなか難しいことです。でも、他人への思いやりの心を育てるのが幼稚園という場所です。集団生活のルールを守り、他人の存在を知り、自分の行動が相手のためになるということを理解していく場であり、他者への思いやりを育てる重要な場所なのです。

例えば「トイレのスリッパを揃える」は、見た目はもちろんのこと「次の人が使いやすいように」揃えるのです。トイレを我慢して慌てて来た時に、揃えてあればすぐに履いて用を足すことが出来ます。子どもたちにも呼びかけますが、先生が気が付くたびに揃えておきます。お手本をいつも示せば、揃えておくことが当たり前となります。次の人の為に揃えておくのは、自分の「もしも」の時に返ってくるのです。

先日、こんな経験をしました。公衆トイレに入った時です。私が入った後に、2・3人の女性のグループが入ってきました。トイレは複数あったのですが、「別のところに行こう。」とそのまま行ってしまったのです。あら？と思って隣のトイレを覗いてみたら、汚れたままの状態でした。こういう時、どうされますか？

私は教育者の立場ですから、決して好感度の為ではありませんが、見て見ぬふりは出来ません。このトイレは私が掃除をしてくれるのを待っていたかも？と、ペーパーで拭き取り、きれいに掃除しておきました。「次の人が使いやすいように」です。

この頃は、コロナ禍でみんながピリピリイライラしているような気がします。「次の人の為に」という思いで行動すれば、もっと穏やかで暮らしやすい生活が出来るのではないのでしょうか。子どもたちに育ててほしい姿は、「我々大人が見せること」の一言につきます。

